

センターの一体化に向けて

お早うございます。下期を迎えて、一言ご挨拶を申し上げます。コロナが蔓延して、行動が制約される日々が続いてきました。そうした中で、皆さんにはそれぞれの持場で弛まずご尽力頂いてきたことに、心から感謝申し上げます。家族、職場の同僚、友人が感染するなど、コロナが身近に迫ったことを実感する7波でしたが、全体的にはようやく下火になってきたようです。国内の人と物の流れが盛んになり、海外からの旅行客も徐々に増え、高速道路や新幹線、そして街中や観光地にも次第に賑わいが戻ってきました。

1年前にもコロナ後への準備について話をしましたが、今年は去年にもましてその思いを深めています。コロナの終息宣言が出た後ではなく、今のうちから取り掛かる必要があります。それは、何でしょうか。一口で申せば、「ふじのくにづくり支援センター」の名に値する仕事をする事です。具体的には、常に「お客さまと共に歩む」経営理念のもと、次の三点に注力することに尽きます。どれ一つ目新しいものではなく、外部環境がどうあろうとも、常に取り組むべき課題であります。

(1) センターの一体化促進

(2) 健全経営の推進

(3) 現場主義の徹底

第一の「センターの一体化」については、この春から組織横断的な全社プロジェクトが発足し、目的や課題がはっきりとしましたので、その成果に期待しています。できるところから始める、小さく生んで大きく育てることなどを念頭に、自分で考え、皆で議論し、衆知を集め、検討を具体化し、実行に移して下さい。誰かが考えてくれるのではありません。人に聞く前に自分で考える。そして、みんなで話し合い衆知を集め、できることから実行する。これからの方々に強くお願いします。

ここで、支援センターが生まれた経緯を振り返ってみましょう。入社して間もない方々が最近が増えていきますので、要約してお話しします。センターの前身「静岡県地域整備センター」は、行財政改革の一環として2003年に、法人格を持たない任意団体として設立されました。整備センターの役割は、三公社の総務業務を行うことに限られていました。そこで法人格を持たせ、総務業務だけでなく、公社単独では出来ない仕事を外部から受注できる組織にしようと考え、紆余曲折を経て2015年に、現在の「一般社団法人 ふじのくにづくり支援センター」を設立しました。その後の経過はご承知の通り、公社が培ってきた専門的ノウハウを生かし、道路の発注者支援業務や土地の地籍調査業務

などに事業を広げてきました。三公社は法律によって設立された団体ですが、共に助け合い、協力し補い合い、センターを傘として実質的な一体化を進めることにより、全体として一層社会のお役に立つ存在となって、永く維持成長する道が拓けるものと私は信じています。

第二の「健全経営の推進」も、皆さんに訴え続けてきたことです。健全経営は、三つの要素からなります。数字に現れた損益の健全性（損益計算書、PL）と資産の健全性（貸借対照表、BS）、それに信用の健全性の三つです。このうち一番大事なのが、信用の健全性です。一時の損失は必ず回復できますが、一度失った信用は簡単には戻りません。それどころか、社会に糾弾され、はては組織の存続すら危うくなります。信用さえあれば、数字は後からついてくるものです。法令遵守（コンプライアンス）の重要性は誰でも知っていますが、それは守るべき最低基準に過ぎないのです。もっと大事なことは、担当者もそうですが、特に管理監督者はしっかりした倫理観をもって仕事に当たることです。「こんな小さなことなら構わない」などと見過ごしてはいけません。世の大きな不祥事は、大方は小事・細事から始まっているのです。皆さんには経営理念「お客さまと共に歩む」のもと、「何が正しいか」を常に念頭に置いて、業務を進めて下さるようお願いいたします。これが信用を高める出発点です。

第三の「現場主義の徹底」は、組織運営の基本中の基本です。現場主義とは、

「現場に立って考え行動する」ことで、これによって現場力「現場で問題を解決する能力」が高まります。現場力は、その組織の持つ実力といって良いでしょう。市町を訪問して営業活動を行い、受注先へのサービスを十分にし、道路や住宅をきめ細かに管理し、地域への配慮を怠らず、問題が発生すれば迅速に対応する。事務所の勤務者は、前線が働きやすい環境整備をするなど、現場は限りなく広がっていきます。良いプランは現場から生まれ、問題解決のヒントも現場にあります。皆さん、足繁く現場に出かけ、人の話を聞き、モノなら触れて自分の目で観察しましょう。当センターと三公社には高い現場力があることを、私は大変心強く思っております。表彰案件や苦情の処理に、それが現れています。こうした現場主義を実行する上で、ICTの活用は不可欠となりました。令和3年度の業務功績表彰の大賞がICT環境の整備に決まったのもそのためで、働き方改革にも大きく貢献するものと期待しています。コロナを乗り越える努力が、こうした形で実ったのだと評価しています。

終わりに、いつも同じ言葉で恐縮ですが、ご家族の皆さまともども公私にわたり充実した日々を送って下さい。

“明るく、楽しく、元気で、厳しく！”

以上